

CSR(社会・環境)活動

社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業

横浜ゴム公式サイトへ CSRサイトマップ



● 理念・方針・会社概要

● マネジメント・CSR経営

● 環境側面

● 社会側面

● CSRトップページ

● トップメッセージ

社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業になるために

厳しい経済環境下においても企業の社会的責任は不変

米国金融機関の破綻をきっかけにして、昨年から世界経済は急速に悪化し、現在も厳しい状況が続いています。このような環境下では、従来であれば収益の追求に終始するところがありますが、私はそのようには考えておりません。例えば、米国のオバマ大統領が打ち出した「グリーンニューディール」は、環境と雇用の両立を狙っており、日本でも環境性能に優れた自動車や家電製品などの振興を図ることで、景気回復と雇用創出を実現しようとしています。こうした施策が社会に受け入れられるのは、人々が単に経済性のみを追求していない証だと考えます。今日、世界が直面している気候変動などの環境問題、生物多様性の危機、人口の急増、貧困と格差、資源枯渇などの課題は、地球に生きる人類が協力しあい、継続して解決に取り組まねばならないものばかりです。グローバルに事業を展開する企業は、地球全域に広がる活動範囲、すなわち国際社会から大きな期待・要請を受けており、たとえ経済が「100年に一度の危機」といわれる状況であっても、長期的視野に立ち、これらの課題解決に向けた取り組みの歩みを止めることはできません。



代表取締役社長

南雲忠信

● 理念・方針・会社概要

- トップメッセージ
- 企業理念
- 中期経営計画
- 横浜ゴムグループの概要

社会からの信頼性の向上 (CSR) を実現する経営の強化

今日、横浜ゴムグループは、16,772名の従業員が日本、北米、大洋州、欧州、アジア、中東、中南米の拠点で事業活動を行い、日本以外の売上高が44%に達するグローバル企業となっております。2006年度からスタートさせた中期経営計画「グランドデザイン100(GD100)」では創業100周年を迎える2017年度に売上高1兆円規模の「企業価値・市場地位において、独自の存在感を持つグローバルカンパニー」になることを明言し、今後もさらなるグローバル化を推進してまいります。横浜ゴムグループは、グローバル企業として国際社会が求める期待・要請に、十二分に応えることが「社会からの信頼を高める」唯一の方策と考えております。そのために私たちは、3年前に「GD100」をスタートさせるに当たり、その基本方針に「トップレベルの環境貢献企業になる」「高い倫理観を持ち、顧客最優先の企業風土を作り上げる」を掲げ、CSR重視の姿勢を打ち出しました。また2008年6月にはCSR本部を設立し、マネジメントの強化を図りました。さらに本年4月からスタートさせた3か年の中期経営計画「GD100フェーズII」(2009年度～2011年度)のテーマを「高質な成長」とし、経営、事業共に質の向上を目指すことを決定いたしました。とくに経営では「人・社会」環境への取り組みを一段と強め、「社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業になる」とのCSR経営ビジョンを社内外に表明いたしました。

社会性に対する経営活動の強化

命題は「人・社会」への取り組みです。仕事と私生活との両立(ワークライフバランス)・多様な働き方の支援のために、従来から育児・介護休業などの施策充実を図っており、さらに2008年には自主的に奉仕活動(ボランティア)を推進する休暇制度を新設いたしました。従業員が安全に働ける職場づくりも重要であり、国内外生産事業所では「設備の本質的安全性」「危険を感知する安全な人づくり」に向けた活動を行うと共に、労働安全衛生マネジメントシステム(仕事の仕組み)の認証取得に取り組んでおります。2007年11月からは、国内外の横浜ゴムグループ会社生産拠点に約50万本の植樹を行う「YOKOHAMA千年の社」プロジェクトを開始し、本年6月までに国内7生産拠点、海外4生産拠点での植樹を行いました。地域社会への貢献と共に地球温暖化防止・生物多様性の保全に向け、従業員とその家族、地域社会の皆さまと社を創生する活動は根付きつつあります。

環境経営の高質化

モノづくりを使命とするメーカーにとって、原材料→生産→商品の利用→廃棄の全過程において環境負荷削減への取り組みが最優先課題です。今日のクルマ社会において、タイヤの低燃費化は地球的規模でのCO₂排出量削減に大きく寄与します。横浜ゴムは1998年に乗用車用低燃費タイヤ「DNA」を発売、現在もさらに性能向上を図った低燃費タイヤの開発を続けており、また2017年度までにすべての商品を環境貢献商品にするとの明確な目標を立てました。2008年度には取扱い商品に占める環境貢献商品の比率が、全商品で75%、新規商品で100%に達しました。環境負荷が少ないモノづくりも重要な課題です。2008年度の温室効果ガス排出量は基準年(1990年)比13.4%減となり、3年連続して京都議定書で定められた日本の削減目標を上回りました。世界の全拠点で高度で同質の環境経営を実施するための努力も続けており、3年前から海外拠点の社長(環境経営責任者)を集めたグローバル環境会議を開催しております。

「快」と「分かりやすさ」をキーワードとして

私は「快」こそが人を動かす力、社会や人に対して何か良いことをすると、それがその人の「快」になると考えております。横浜ゴムは、2006年2月から「ムダ取り活動」と名付けた全社運動を展開しております。当初は経費削減が目的でしたが、活動を続ける中で、ムダな資源は使わない、ムダな電気は消すといった環境貢献活動に進化していきました。小さな活動でも社会に役立つ気持ち良さ、つまり従業員が感じる「快」が、運動を長続きさせる原動力だと考えております。

もうひとつ重要なことは「分かりやすさ」です。多くの従業員にとってCSR(Corporate Social Responsibility)という言葉は馴染みづらいものです。そこで私は昨年、「Responsibility」は「責任」と訳さず「信頼」と言い換えようと呼び掛けました。責任を果たすといえば重く響きますが、社会から信頼される企業になろうといえば、肩の力が抜けて実行しやすいと考えたためです。

CSRに向けた活動は今後も長く続きます。こうした活動を継続していくためには、従業員一人ひとりが、誰でも自然に取り組める仕組みづくりが大切で、私は「快」と「分かりやすさ」をキーワードに、創意工夫をして活動の定着と活性化を図りたいと考えております。

最後になりましたが、私どもは、横浜ゴムグループに関心をお持ちくださる皆さまから様々なご指摘やご意見を頂戴し、新たな課題の発見や活動の改善に結び付けたいと考えております。ぜひ、忌憚のないご意見やご感想を賜りますよう、お願い申し上げます。

[▲ ページの最上部へ](#)

CSR(社会・環境)活動

社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業

● 企業理念 (1990年制定)

基本理念

心と技術をこめたモノづくりにより、幸せと豊かさにご貢献します

経営方針

- 技術の先端に挑戦し、新しい価値を創り出す
- 独自の領域を切り拓き、事業の広がりを追求する
- 人を大切にし、人を磨き、人が活躍する場をつくる
- 社会に対する公正さと、環境との調和を大切にする

行動指針

- 自らを鍛え、自己ベストに挑戦する
- たがいに信頼し合い、ぶつかり合い、高め合う
- 外に向けて開かれた心を育てる

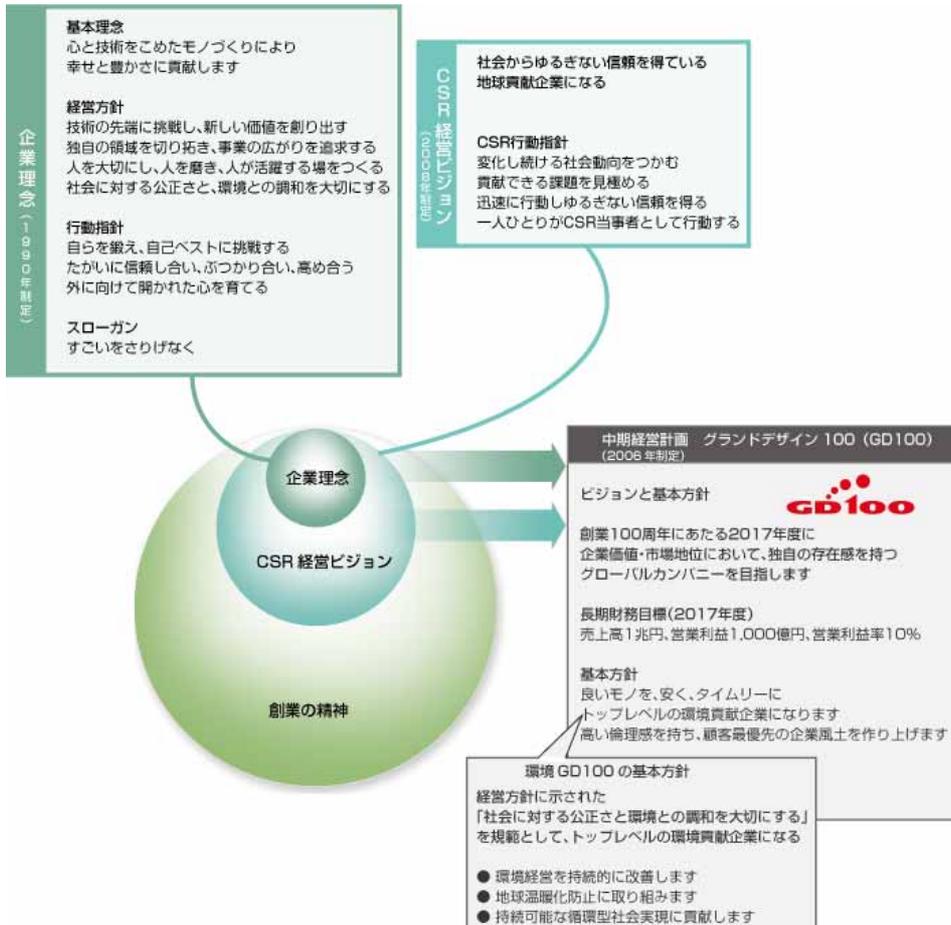
スローガン

すごいをさりげなく

● 理念・方針・会社概要

- トップメッセージ
- 企業理念
- 中期経営計画
- 横浜ゴムグループの概要

企業理念・CSR経営ビジョン・中長期経営計画「GD100」の概念図



● 中期経営計画 (2006年度制定)

横浜ゴムは2006年度から中期経営計画「グランドデザイン100(GD100)」を開始しました。「GD100」は、横浜ゴム創業100周年にあたる2017年度に、売上高1兆円、営業利益1,000億円の企業規模を持ち、企業価値・市場地位において、独自の存在感を持つグローバルカンパニーになることを目指す計画です。3年度ごと4期に分けて定量目標、事業戦略を策定し2017年度目標の達成を目指しており、2009年度からフェーズⅡ(2009年度～2011年度)に取り組んでいます。

グランドデザイン100 (GD100) のビジョンと基本方針

■ 創業100周年にあたる2017年度に

企業価値・市場地位において、独自の存在感を持つグローバルカンパニーを目指します

■ 長期財務目標(2017年度)

売上高1兆円、営業利益1,000億円、営業利益率10%

■ 基本方針

良いモノを、安く、タイムリーに

トップレベルの環境貢献企業になります

高い倫理感を持ち、顧客最優先の企業風土を作り上げます

● 理念・方針・会社概要

● トップメッセージ

● 企業理念

● 中期経営計画

● 横浜ゴムグループの概要

GD100フェーズⅡの基本方針と定量目標

■ 基本方針

「高質な成長」。世界経済の回復への道筋が見えない中、不透明な経営環境にあっても成長を持続できる質の高い企業基盤の確立を目指します。経営、事業、技術、事業基盤での質を高める計画ですが、中でも経営においては「環境と人を大切に社会から信頼される企業」を目指して社会的責任(CSR)経営を強化する考えです。

フェーズⅡの外部環境予測とテーマ

- 世界経済が危機前の成長軌道に戻るには一定の時間がかかる
- 世界経済の再成長には中国をはじめとする新興国がリードする経済回復や、先進国による新しいエネルギー成長など、さまざまなシナリオが考えられる

フェーズⅡの概略

タイヤの成長戦略

- 海外でのプレゼンス向上
- 各国の状況に応じた弾力的な生産増強
- 地域別事業体制のグローバル化

MB*の成長戦略

- 成長分野におけるグローバル展開
- 環境分野での新規事業開拓

技術戦略

- 環境への負荷を低減
- 「良いモノを、安く、タイムリーに」をさらに徹底

フェーズⅡのテーマは「高質な成長」

不透明な経営環境にあっても成長を持続できる質の高い企業基盤の確立をめざす

経営基盤の強化

- CSR経営の徹底
- コスト競争力の強化
- 国内事業の構造改革

*MB: マルチプルビジネスの略で多角化し、拡大する事業の意味。ホース配管、工業資材、接着剤、航空部品などを手がけています。

2011年度定量目標

売上高	5,500億円
営業利益	385億円
営業利益率	7%
3年間のフリーキャッシュフロー	300億円以上

GD100での「フェーズII」の位置付け



▲ページの最上部へ

CSR(社会・環境)活動

社会からゆるぎない信頼を得ている地球貢献企業

横浜ゴム公式サイトへ CSRサイトマップ



● 理念・方針・会社概要

● マネジメント・CSR経営

● 環境側面

● 社会側面

● CSRトップページ

● 横浜ゴムグループの概要

創業92年を迎えた横浜ゴムは、売上高5,173億円、グループ従業員16,772人のグローバルカンパニーです。

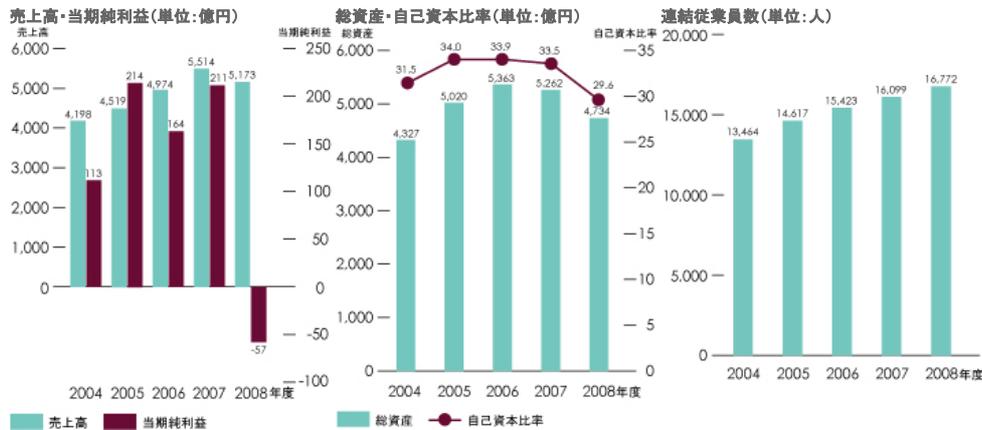
横浜ゴムの概要 (2009年3月31日現在)

社名	横浜ゴム株式会社
設立	1917年10月13日
本社	〒105-8685 東京都港区新橋5丁目36番11号
代表取締役社長	南雲忠信
資本金	389億円
連結売上高	5,173億円
連結従業員数	16,772人
株主数	16,043人
発行済株式総数	342,598,162株
連結対象子会社数	156社
持分法適用会社数	2社
上場証券取引所	東京、大阪、名古屋

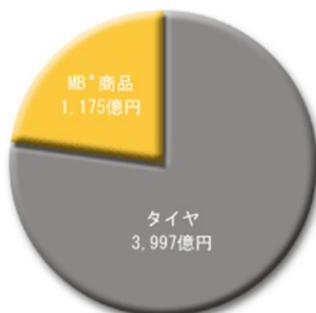
● 理念・方針・会社概要

- トップメッセージ
- 企業理念
- 中期経営計画
- 横浜ゴムグループの概要

売上高/総資産/従業員数の状況



部門別売上高 (2008年度)



<売上高合計 5,173億円>

売上の
77%はタイヤ
23%がMB商品

地域別売上高 (2008年度)



<売上高合計 5,173億円>

売上の
56%は日本
44%が海外

*MB: マルチプルビジネスの略で多角化し、拡大する事業の意味。
ホース配管、工業資材、接着剤、航空部品などを手がけています。

横浜ゴムグループ会社

横浜ゴムグループは、横浜ゴム、子会社184社、関連会社51社で構成される企業集団です。

■タイヤ部門の事業内容

ヨコハマブランドの乗用車用、トラック・バス用、小型トラック用、建設車両用、産業車両用などの各種タイヤ・チューブ、アルミホイール、自動車関連商品を製造販売しています。

子会社・関連会社: 194社

<製造販売会社11社>

ヨコハマタイヤコーポレーション、ヨコハマタイヤフィリピンINC.、杭州横浜輪胎有限公司、ヨコハマタイヤマニュファクチャリング(タイ)、蘇州横浜輪胎有限公司など

<販売会社183社>

ヨコハマタイヤ東京販売(株)、ヨコハマタイヤ近畿販売(株)、ヨコハマタイヤ(カナダ)INC. など

※2009年7月、国内市販用タイヤ販売事業を再編し、

18のタイヤ販売会社を(株)ヨコハマタイヤジャパン1社に統合しました。



■MB部門の事業内容

コンベヤベルト、ホース、防舷材、橋梁用ゴム支承、防音・防振商品、接着剤、シーリング材、航空機用内装品および構造材料、PRGR(プロギア)ブランドのゴルフ用品を製造販売しています。

子会社・関連会社: 22社

<製造販売会社11社>

サスラバーカンパニー、YHアメリカINC.、協機工業股份有限公司、ヨコハマラバー(タイランド)カンパニーLTD.、横浜密封材料(杭州)有限公司など

<販売会社11社>

横浜ゴムMBE(株)、(株)プロギアなど



■その他の事業内容

主に横浜ゴムグループ内でのサービス提供を行っています。

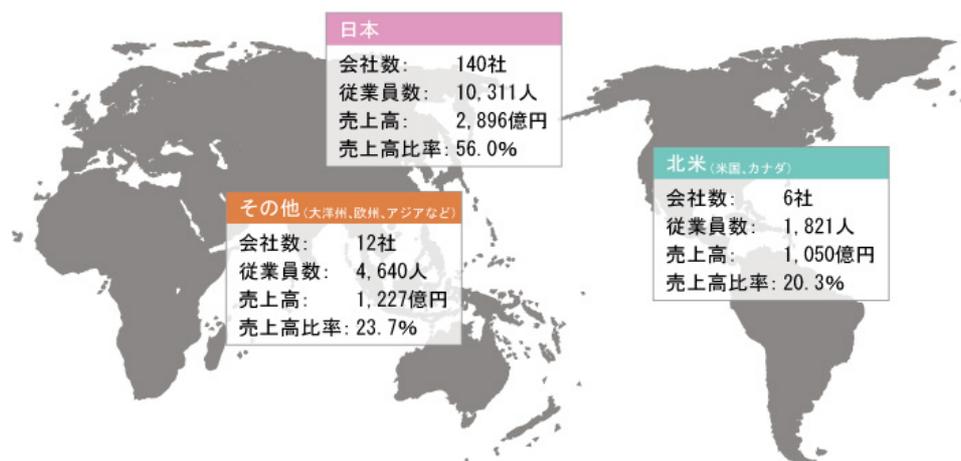
その他子会社・関連会社: 19社

浜ゴム物流(株)、浜ゴム不動産(株)、ハマゴムエイコム(株)、日本パワーブレーキ(株)、浜ゴム興産(株)など



地域別事業展開

会社数: 連結子会社と持分適用会社 / 従業員数: 連結対象会社 / 売上高: 地域別売上高(顧客の所在地別)



横浜ゴムの主要ブランド

I 乗用車用タイヤ



I ゴルフ用品



ステークホルダーへの経済的価値分配

GRIガイドラインおよび事例を参考に、財務諸表の収益と費用をステークホルダー別に分類する方法で試算しました(社会と環境は独自に集計)。2008年度は、経済危機の影響で売上高が前年度比6.2%減少し、当期純利益は55億円の赤字となりました。このためステークホルダーへの分配額は前年度に比べて減少しました。

ステークホルダー	分配額(百万円)		金額の算出方法
	2008年度	2007年度	
取引先*	291,738	295,393	売上原価(人件費を除く)、販売費・一般管理費(人件費を除く)
従業員*	50,965	49,571	売上原価と販売費・一般管理費のうちの人件費
株主	4,357	4,693	キャッシュ・フロー計算書の配当金の支払
債権者	3,479	3,898	営業外費用のうちの支払利子
政府・行政	2,975	5,334	法人税など
社会	32	32	社会貢献に関する支出を独自に集計
環境	9,353	4,315	環境に関する支出を独自に集計
企業内部	▲10,011	16,367	当期純利益から配当金支払い分を除いたもの

* は単独決算数値です。

沿革

	主な事業活動	主なグローバル事業	主なCSR活動
1917	横浜電線製造(株)と米国B.F.グッドリッチ社との折半出資により、横浜護謨製造(株)として神奈川県横浜市裏高島町に設立		
1920	神奈川県横浜市に平沼工場を開設		
1929	神奈川県横浜市に横浜工場を開設		中川末吉社長訓話(創業の精神)
1943	三重県度会郡に三重工場を開設		
1946	静岡県三島市に三島工場を開設		
1952	神奈川県平塚市に平塚製造所を開設		

1958			初の環境貢献商品(空気式防眩材)を開発
1964	愛知県新城市に新城工場を開設		
1969		米国に「ヨコハマタイヤコーポレーション」を設立	
1973	茨城県東茨城郡に茨城工場を開設		環境改善部を設置
1974	広島県尾道市に尾道工場を開設		
1987		米国に「YHアメリカInc.」を設立	
1988		米国に「GTYタイヤカンパニー」を設立	
1989		米国の「モホークラバーカンパニー」を買収	
1990		台湾の「協機工業股份有限公司」に資本参加	
1992	「心と技術をこめたモノづくりにより、幸せと豊かさに貢献します」の基本理念を策定	米国に「サスラバーカンパニー」を設立	環境保護推進室を設置
1996		フィリピンに「ヨコハマタイヤフィリピンInc.」、タイに「ヨコハマラバー(タイランド)カンパニーLtd.」を設立	
1998			三島工場が横浜ゴムで初めてISO14001の認証を取得 エコタイヤ「DNA」を発売
2001		中国に「杭州横浜輪胎有限公司」を設立	横浜ゴム国内8生産事業所でISO14001の認証取得を完了
2002	中期経営計画「グランドデザイン10(GD10)」を発表		
2003	愛知県新城市に新城南工場を開設		
2004		タイに「ヨコハマタイヤマニュファクチャリング(タイ)」、中国に「横浜密封材料(杭州)有限公司」、「横浜胶管配件(杭州)有限公司」を設立	海外製造販売会社でISO14001認証取得活動が本格化
2005		中国に「横浜橡胶(中国)有限公司」を設立	コンプライアンス推進室を設立
2006	新中期経営計画「グランドデザイン100(GD100)」を発表。3年度計画の「フェーズⅠ」を開始	中国に「蘇州横浜輪胎有限公司」、「山東横浜橡胶工業制品有限公司」を設立	「トップレベルの環境貢献企業」を表明 「横浜ゴム行動規範」を制定 国内8生産事業所で完全ゼロエミッションを達成
2007	尾道工場に第2プラントを開設	インドに「ヨコハマインディアPvt. Ltd.」を設立	内部統制推進室、安全衛生推進室を発足 「YOKOHAMA千年の社」プロジェクトを開始
2008		ブラジルに「ヨコハマラバーラテンアメリカIndustria E Comercio Ltda.」、タイに「ヨコハマアジアCo., Ltd.」を設立 ロシアにタイヤ工場建設予定地を購入	CSR・環境推進会議、CSR本部、CSR・環境推進室を発足 海外10製造販売会社でISO14001認証取得を完了
2009	3年度計画の「GD100フェーズⅡ」を開始 国内タイヤ販売会社18社を統合し「(株)ヨコハマタイヤジャパン」を設立	ドイツに「ヨコハマ工業品ヨーロッパGmbH」を設立	「GD100フェーズⅡ」でCSR経営の強化を表明 国内5生産事業所で産業廃棄物100%再資源化を達成 「YOKOHAMA千年の社」プロジェクトによって、国内7事業拠点、海外4事業拠点で第1期植樹を完了

▲ ページの最上部へ